

第5回萩小学校複式編制回避検討委員会・議事概要

開催日 令和5年10月2日（月曜） 午後7時～午後8時30分
場 所 萩地区市民館 1階集会室
参加者 検討委員会 11名
事務局 4名

1 議 題

(1) 保護者（萩小学校入学予定児童）の意見を聴く機会の開催について

【委員長】 議題の（1）、『保護者（萩小学校入学予定児童）の意見を聴く機会の開催』について、教育委員会から説明をお願いします。

[事務局] 「保護者（萩小学校入学予定児童）の意見を聴く機会の開催について（案）」に基づき説明

(説明概要)

○開催目的：令和5年5月に実施したアンケート調査では、若い世代の方の回答が他の世代の方に比べて少ない結果となった。また、アンケート調査の結果の中で、「複式編制を回避する取り組みを検討するにあたり、重視すべきことは何ですか」という質問に対して、「子どもの意向について」と「保護者の意向について」という回答が多くあったため、今後、検討委員会で検討を進めるにあたり、保護者の率直な意見を聴く機会を設ける。

○開催時期：10月から12月（できるだけ早い時期）

○対象者：萩小学校に入学予定の児童の保護者

≪内訳≫

5歳児： 7人

4歳児： 5人

3歳児： 2人

2歳児： 8人

1歳児： 7人

0歳児： 7人

合計36人 (R5.3月末の住民基本台帳による)

※ 萩小学校に就学する予定の児童や、今年の4月以降に生まれた児童の保護者の方なども対象とする。

○確認事項：別紙（案）のとおり

（以下質疑応答等）

【委員長】 開催の目的・開催の時期・対象者の人数・それから確認事項等について、各委員の意見を聞き、検討委員会としての方向性を出したい。

【B委員】 検討委員会でやるものなので、主催は検討委員会で良いのではないかと。委員も生の意見も聞いた方がいいので、出席できる人は参加させてもらいたい。

0歳から5歳児の保護者（両親）が出席しやすいよう、複数回、日曜日に開催するのが良い。

開催周知方法については、回覧ではなく、該当者の36人が分かっているので、総代から直接その人に配ってもらうのはどうか。

今後住む予定の人は、どうやって把握するのか。例えば親御さんが住んでいて、今後戻ってくる予定がある人等、総代が把握しているかどうか。

【事務局】 そもそも、町内会で該当者（36人）の把握が出来ているのか。

【副委員長】（誰が該当者か）町内会ではわからない。（萩保育園の）園長に聞くしかない。

【事務局】 該当者全員が萩保育園に通っているわけではないと思うが。

【D委員】 （該当者全員は）来てない。

【B委員】 大事なことなので、教育委員会で該当者を調べることはできないのか。

【事務局】 この目的で調べることは不可能。

【委員長】 以前、非常時・災害時用に世帯票というものを町内会で集めたことがあるが、それはあくまで非常時・災害時用。目的外使用になるので、それを使って該当者を調べることはできないし、住民から集めた趣旨が違っていると指摘されたら説明できない。

総代や、近くの地区員が持っている情報くらいしか、調べる当てはないと思

うが、他に方法があれば教えて欲しい。

【B委員】 さくらんぼ会に出ている人と、保育園に通っている人以外となると、総代し
かわからないのではないか。

【委員長】 例えば市民館だよりで、「こんな会を開催するので、心当たりの方は市民館ま
で届出ください」とするのはどうか。開催時期が遅くなるかもしれないが、
そういう方向で拾っていくしかないと思う。

【J委員】 個人的に、知っている子に声をかけるのは良いか。

【事務局】 問題ないと思う。

町内が違う目的で収集した情報を、このために使うというのは目的外利用に
なるため不可能である。

周知方法について議論しているが、まず、そもそも開催の有無についてはど
うか。

【H委員】 先週さくらんぼ会があった。その時に来られていたお母さんに、検討委員
会でこんな議題があがっています、という話をしたら、「是非して欲しい」と言
っていた。

4月の説明会に参加したが、聞きそびれた人や、聞いただけではよくわから
なかったという人、それから、文面になるとわかりにくいという意見もあっ
た。さくらんぼ会のお母さん達としては、もう一度説明していただきたいと
いう意見だった。

ただし、11月から12月はさくらんぼ会でイベントが続く。イベントはイ
ベントとしてやりたいので、別日に設定してもらえれば、ぜひ参加したいと
いうことだった。日程さえ決まれば、家族と都合を合わせるとのこと。

【L委員】 私も、そういう会を開催し、皆さんの生の声を聴いていただきたいと思
う。

【D委員】 実際に小学校とか通うお母さん方が、どう思っているのかを聴くという機会
は良いと思う。

(案)に「保育園に保護者が集まる機会等を使って開催」と書かれている
が、今、保育園に来ている保護者は働いている方が多く、保護者が集まる機
会というのは、昔に比べるとすごく減っている。感染症もあったので、集ま
る機会が少なくなっている。保育園に集まる機会を利用すると、ちょ
っと難しいかなと思う。

【N委員】 萩保育園には不安がっている保護者さんが多く、意見を聴く会を開催して欲

しいという希望は聞いている。

D委員が言われたように、萩保育園に保護者が集まる機会を利用するというのは、なかなか難しいかなと思う。萩校区外の保護者も半分くらいはいるので、そういったことを考えると、複数回、場所を設けて開催した方がいいと思う。土日にお仕事の方もいるので、平日と土日に分けた方が良い。

子どもを連れての参加になるので、ちょっと賑やかになるのはご了承いただきたい。

【F委員】 主催はやはり、検討委員会にするのがいいと思う。

私も個人的には生の声を聴きたいので、実際出席される方がOKしてくれるならば、出させていただきたい。

周知方法について、いわゆる『ママさんネットワーク』で、色々な事を知っている方が多いように感じた。36人の中に、お子さんが複数いる可能性があるので、実際の保護者数は36人よりも少ない可能性がある。地元に住んでいるお母さん方は、結構色々なことを知っている。その辺りをうまく利用できると思う。

周知について、漏れがあるかもしれないが、それは仕方がない。回覧版を使って周知するよりも、対象者一人ひとりに直接開催通知を渡して、意見を出してくださいとお願いする方が効果的かなと思う。

【J委員】 主催は検討委員会で良い。複数開催して、どこか都合の付く会に、委員が顔を出すのは有りかなと思う。

【G委員】 検討委員会と同じように夜7時開始だと、子どもさんがいる家庭は非常に参加が難しい。そういうのを色々加味するため、「何曜日が一番出やすいのか」、「何時頃が出やすいのか」というのをある程度対象者に聞いてもらった方が、案内は出しやすいと思う。

開催が1回では難しい。大変だが、2回・3回が良い。

【副委員長】 皆さんの意見に従う。

先日、萩保育園の運動会に参加した。来年入学の青組が5人いた。予定だと8人になっているが、他の保育園に行っている園児もいると思うので、8人くらいかなと思う。

その次の年の資料も持っていると思うが、このままいくと再来年の小学校に入学予定園児は3人である。

保護者の意見を聴く会の開催には反対はしないが、開催することが目的になるのは良くないと思う。色々な意見を聴いたら、その意見を活かして、萩小学校の複式編制を回避する行動につなげなければいけない。

開催して、「意見聞きました」だけでは、何も解決にはならない。そのことは

皆さんも頭の中にも入れておいていただきたい。何かしらの行動に結びつけていかないと、本末転倒になる。

【K委員】 保護者の意見を聴く会が開催されるのであれば、ある程度、学校における教育の在り方に関して、親御さんたちが疑問を持たれると思う。それに対して少しでも答えることができるように、私も、参加できるのであれば、協力できたらと思っている。

【委員長】 主催については検討委員会が良いという声が多数占められている。検討委員会主催としてよろしいか。

(一同うなずく)

では、検討委員会主催とする。

委員の出席については、委員がいると本音と言えないと感じる人もいるかもしれない。(委員の出席については)一度時間をおいて改めて議論した方が良いのではないかと個人的には感じるがどうか。

[事務局] アンケートなら個人が特定されないので、本音を答えてもらえたと思う。ただ若い方の意見は少なかったが。

顔を知っている人がいると言いつらいとか、人前では発言できないという方もいるかもしれない。

事務局としては、開催予定の会だけしか意見を聴かないというわけではなく、その場で言いつらければ、電話や教育委員会に来て意見を聴くということでも構わない。とにかく、保護者の本音を聴きたいと考えている。

【H委員】 会議のような配席だとなかなか言えないが、例えば、さくらんぼ会だったら、萩の間で、子どもたちもおもちゃを広げ遊びながら、お母さんたちがおしゃべりしている。そういう雰囲気の中でやってくれれば。かしこまってしまくと、言い出しにくいかもしれない。

委員の参加、不参加に関わらず、ざっくばらんではないが、ちょっとゆったりした雰囲気だったら、お母さんたちも意見を出しやすいのではないかとこの印象はある。

さくらんぼ会のお母さん方は、希望を叶えてもらえるなら、平日の10時が良いとのことだった。午後だと、昼寝の時間だとか、生活リズムをコントロールしなくちゃいけないので、午前中の方が都合が良いと言っていた。

[事務局] さくらんぼ会の所属は今何人くらいなのか。

【H委員】 お母さんの数は8名。

[事務局] 平日の10時開催は可能。

ここで開催日程を決めるよりも、さくらんぼ会で都合が良い日を決めてもらった方が良いかもしれない。

子どもの同席は、構わない。

さくらんぼ会には所属していないが、その時に都合がつく保護者の方がその場に来ることは可能か。

【H委員】 構わない。

〔事務局〕 保育園の保護者は平日仕事だと思うので、土日の方が良いと思うが、土日の場合は何時くらいが良いのか。

【N委員】 夜は忙しくなる時間帯なので、できれば午前中の方がいいと思う。

〔事務局〕 平日でも土日でも10時くらいの午前中くらいに開催した方が良いか。

【委員長】 その方が良いと思う。平日、土日で4回くらい開催はどうか。

〔事務局〕 周知方法は、市民館だよりに載せてもらえれば、見る機会はあると思う。
あとは、F委員が言われたように、何か、ネットワークがあって、そこから周知していただけるのか。

【F委員】 それはお母さん方に聞かないとちょっと自信がない。

【N委員】 保育園での周知は、手紙か何かで回せば出来るが、それ以外となるとわからない。

【H委員】 さくらんぼ会も、噂や目撃情報を元に、さくらんぼ会に誘って来てもらっているので、逆に、今さくらんぼ会に来ていない方の情報は全くない。

〔事務局〕 萩小学校に入学予定の対象者が36人いて、世帯数だと30弱くらいだと思う。そのうちの8世帯がさくらんぼ会にいる。更に、萩保育園は萩保育園内でネットワークがある。この2つだけで、ある程度の周知は網羅できてしまうのかもしれない。

萩保育園の中で、萩小学校に入学予定の方だけに、事務局からの文章を渡してもらうことは可能か。

【D委員】 萩保育園に今いる園児数は22名で、そのうち萩地区住民は18名。世帯だともうちょっと少ない。兄弟で入園しているので。その方たちに手紙を渡すことは可能だと思う。

〔事務局〕 それ以外でも、萩に戻る予定という方が分かればその人にも渡していただき

たい。

36人全員に直接渡さなければいけないと考えるとなかなか難しいが、さくらんぼ会の8人や萩保育園の18人、あとは例えば市民館だよりか何かで載せてもらい、更に先ほどJ委員が言われたように、個人的に分かる人に周知してもらえば、ある程度は周知できるのではないか。

市民館だよりに載せれば、該当ではない世代の方も目を通してもらえるので、例えば「うちの子供が孫連れて帰ってくる予定だ」という方にも周知できる。

【委員長】 さくらんぼと保育園の該当者、それから心当たりの方に個人的に伝える。あとは市民館だよりに載せるという形で周知する。日程はどうか。

〔事務局〕 開催日があまり離れないように、さくらんぼ会に都合のいい時を聞いて、その前後の土日に設定して、数回開催するくらいが良いのではないか。
設定した開催日にどうしても都合が付かなければ、先ほど言ったように、事務局に連絡していただければ、個別に答えることもできる。

【委員長】 開催の情報を市民館だよりも掲載した方が良いか。

【H委員】 次の市民館だよりは、10月下旬である。

【副委員長】 回覧で回せば月に2回チャンスがある。市民館だよりだと月に1回しかない
ので、回覧すれば良い。
回覧を出したり、萩保育園の園児さんに持って帰ってもらったり、あとは、
該当者が特定できているならそこに直接持っていけば良いのではないか。できる限り目に触れる機会を多くした方がよいと思う。

〔事務局〕 では色々な形で周知させていただく。
日程は、さくらんぼ会の希望を確認して、その日に近い土日に設定させていただく。

【B委員】 「歩け歩け運動」は今年も開催するのか？

【副委員長】 開催する。

【B委員】 萩地区には「歩け歩け運動」というイベントが、10月の終わりか11月の初めにある。(開催日は)その日を外してもらわないと。

〔事務局〕 さくらんぼ会に希望日を聞いたら、副委員長に町内の行事の有無を確認させていただく。
会の進め方は、説明会のように事務局が10～20分間説明するのではなく、参加者が聞きたいこと質問してもらおう形にした方がよいのか。

【H委員】 さくらんぼ会のお母さん方は、「今どういう状況なのか」ということが知りたいと言っていた。先が見えないから何を考えればいいかわからない、という不安な意見が多かったの、まずはそれを聴いていただきたい。

【事務局】 「今、何が不安ですか？」ということに参加者に聞いて、そこで出た質問に対して事務局が回答する形の方が良いか。その場で全ての質問に答えられるかどうかかわからないが。

一応、資料は持参するが、それを隅から隅まで説明するのではなく、皆さんの意見を聴くことを中心に進めていく形でよろしいか。

【委員長】 保護者の素直な意見を一つ一つ丁寧に聴くようお願いする。

【事務局】 委員には、日程をお知らせして、都合がつけば参加ということで良いか。もちろん、相手方の希望次第だが。

【委員長】 参加者が聞かれないという場合は、委員の傍聴はご遠慮いただく。

【事務局】 前回の説明会では、事務局と委員が上座に並んでいる堅苦しい雰囲気だった。

本当は座談会のように言いたいことを言う形を取りたい。

委員に出席しないで欲しいとまで言えないが、上座に委員がずらっと並ぶと、堅苦しい雰囲気になってしまい、言いたいことも言えないのではないか。

【B委員】 後ろの方に傍聴席を作り、委員はそこで聞いていれば良いのではないか。上座には委員長さんと事務局が出て、残りの委員は後ろで。

【事務局】 その辺も含めて、一度参加者に聞いていただく方が良いと思う。委員がその場にいると意見も言いづらいという話であれば、申し訳ないが委員はご遠慮いただきたい。

委員が不参加の場合でも、どんな意見が出たかは報告する。個人が特定されるような報告はできないが、こんな不安があるとか、こういう質問があったということは、委員にも伝えさせていただく。

委員の参加については、一度、参加予定者に投げかけるような形にする。

【F委員】 委員は、会場に出向くが会場内には入らず別室に待機していて、参加者のOKが出たら中で傍聴させてもらうというのはどうか。

【事務局】 意見を聴く会は、保護者に直接アプローチできる初めての機会である。また、相手方もそれを望んでいるという、またとない機会である。

そんな中で、集まった人よりも傍聴者の方が多い状況だと、おそらく何も意見が出てこない可能性がある。委員は聞きたいかもしれないが、参加者は聞

かれたくないかもしれない。委員の傍聴については、参加される方に決めてもらった方が良くはないか。

【F 委員】 駄目だったら帰るだけの話。そういうこともあるだろうと出向くので、駄目なら駄目で仕方がない。

〔事務局〕 委員はそれでも仕方がないと思うが、相手方としては、わざわざ委員が来ているのに、私たちの意見を聴いて欲しくないから帰れとは言えないと思う。事務局は地元の間人ではないので、そういう人間には言えることもあるのではないか。

【B 委員】 今の若い人は疎いので問題ない。

〔事務局〕 それは人それぞれだと思う。

【委員長】 さくらんぼ会に周知する際、『委員さん等が傍聴させていただきます』という一文を入れておけばどうか。人にはそれぞれ考えがある。

〔事務局〕 実施回数は4回で決定なのか。
4回やると、例えば、保護者36人が対象なので、1回あたりの参加人数がかなり少なくなる可能性がある。

【委員長】 母親だけでなく、父親の意見も聞きたいので、4回は実施したい。

〔事務局〕 4回開催するのならば、平日2回の土日2回くらいで、時間は10時から。場所は萩地区市民館を貸していただけるなら、都合が良いと思う。
さくらんぼ会の希望日を確認して、その後、町内会の行事を含めて副会長や委員長と調整をし、日程が決まったら委員の皆さんにお知らせするという形でよろしいか。

【委員長】 それでお願いします。

【B 委員】 確認事項の中に「保護者に聞きたいこと」という項目がある。F委員が心配されたように、委員が保護者の生の声を聴けない可能性もあるので、2つ聞いて欲しい。
一つは「保護者が学校に期待すること」。全然考えていない人もいるかもしれないが、その辺の生の声を聴きたい。
もう一つは「子どもたちにとって社会で生きていく上で必要な力ってどんなものですか」ということ。

〔事務局〕 この2問はどういう意図で聞かれるのか。

【B委員】 今、萩小学校にいる1年生から6年生にとって、それが必要ということをお小学校の校長先生に伝えやすくなる。それが、すぐ学校現場に活かされる。それから、社会で生きていく上で必要な力というのは、『大きい学校じゃなければできない』、『小さい学校の方ができやすい』ということが色々あると思う。その辺の、どういうものが必要な力なのかというものが、保護者のほうでしっかり把握していれば、今後、萩小学校がこういう方向で行くと決まったときに、その時にはこういうようなことが考えられると言える。保護者の方に、しっかり把握してもらわないといけない。

【事務局】 1問目はともかく、2問目は家庭の問題な気がする。

【B委員】 家庭もあるが、学校でこういう力をつけておいてくれば、小さい学校から大きい中学校に行った時に、縮こまらずに自信をもっていくことができる。そういう力を、小学校で身につけておいてもらえれば、太刀打ちできるということ。だから、保護者の方が、自分の子にどのような力が欲しいかということ。前のアンケートで、大きい学校に行くとき社会性が育つという回答があったが、では、『社会性』とは何なのか。わかっているようでわかってない。

【事務局】 子どもが小学校に上がる時には、どちらかというと「のびのびやってくれればいい」くらいのことを思っている人がほとんどではないか。例えば、そういう回答が集まった場合、どうやって回答を集約処理するのか。家庭ごとに、ばらつきがある回答がでさそう気がする。

【B委員】 生の声が出てくれば、やっぱりこういうのが本当に必要な力なんだろうと思う。こういう力が社会にとって必要だということを保護者が持っていれば、小学校の保護者面談の時に、「こういう力をつけて欲しい」と担任の先生に言える。保護者が学校に期待することは、毎日楽しく学校に行きたくて欲しいということが一番だと思うが、「学力をつけて欲しい」という保護者もいる。今度、小学校に上がってくる子の保護者がどこまでそれを考えているのか。1問目はそのための質問。2問目は、本当にバラバラだと思う。だからこそ、本音をちゃんと聞きたい。その中で、保護者は子どもにこういう力をつけて欲しい、だから、だから大きい学校にして欲しいということになれば、委員としてはそれ以上何も言えない。その辺の本音を聞きたい。

【事務局】 最初から、「今後の萩小学校に在り方についてどう思いますか」と聞くのは難しいので、B委員の質問のように、オブラートに包んで聞くということか。

【B委員】 そのとおり。

【H委員】 他人の前でその質問の答えを発表となると、参加者はとても緊張すると思う。子どものことを考えているが、自分の親力を試されているように感じる。そういうことを言わなければいけないのは、とても難しい。
例えば、会終了後に、感想用紙を用意して、そこにこの質問を書いておいて、『ご意見ありましたらご記入ください』とされるなら、書くことは可能だと思う。
あと、あまりお子さんが小さいと、「おむつをどう取ろう」、「離乳食をどう食べさせよう」という、今のことに必死で、それ以外のことは、「友達出来たら良いな」「ケガしないが良いな」くらいになる。いざ入学という時によろやく学校に対して思いが出てくるので、小さなお子さんをお持ちのお母さんにはちょっと難しい質問だと思う。

【B委員】 面と向かってではなく、今言われたようにアンケート形式を取り、書ける人は書いてくれば良い。

【L委員】 保護者の人が知りたいのは、今後学校がどうなっていくのかということ。この先、何年萩小学校があるのか、「先がないならここに入学しても……」と考える人もいるのではないか。「我が子が萩小学校に通えるのか」、「いつなくなっちゃうのか」という、そういう予定が聞きたいのではないか。

【事務局】 事務局はそういう趣旨で話を聞きたいと思っている。

萩小学校は令和10年度に複式編制になる予定だが、複式編制にならなくても、今のままでは、人数2人という学年ができる。

それが良いか悪いかは人それぞれの捉え方で、2人でも問題ないという人もいれば、2人しかいないなら、別に引っ越そうかなと考えるケースもゼロではない。その辺りが、多分一番みなさん不安だと思う。

また、今回参考資料で配布した特認校制は、市内のどの学校からでも萩小学校に通えるようになる制度だが、どんな子が来るかはわからない。全然知らない子が来ることに不安を覚える人もいるかもしれない。全然問題ないと感じる人もいるかもしれない。

全ての希望に添えられるわけではないが、そもそもこの会を開催する一番の趣旨は、アンケート結果で、子どもさんの意見や保護者の意見を尊重していただきたいという回答が多かったから。そういう意味で、B委員の質問を会で聞くというのは、なかなかハードルが高いかなと思う。

【委員長】 B委員の2問についてはアンケートで実施していく。

参加者は、小学校がどうなっていくのかということが一番知りたい。その辺をしっかりと説明し、意見を聴くのが一番いいのかなと思う。

そのためにも、子どもさんの意向、保護者の意向、入られる方の意見をしっかり聞いて、次どうしていくかっていうのが、重要かと思う。

これで、議題1「保護者（萩小学校入学予定児童）の意見を聴く機会の開催について」については終了する。

（2）空き家利用に関する出前講座、市長への要望書について

【副委員長】 町内会として、萩町のコミュニティをもっと活性化するため、豊川市の建築課に依頼し、空き家バンク制度の出前講座をやっていただくことになった。日時については講師の予定もあるので、こちらで調整して、10月28日土曜日の10時からになった。

萩町のコミュニティをもっと活性化し、世帯数を増やして、それに伴い子ども数が増えてくれると小学校にとっても良いのではないか、ということでやらせていただく。今も回覧を回しているの、よろしくお願ひしたい。

もう一つ、昨日選挙が終わって、竹本幸夫さんが豊川市長二期目に決まった。市長宛、竹本幸夫殿で要望書を出そうと思っている。

この要望書には『複式編制どうのこうの』ということはメインには書いていない。萩町を活性化するために、神田住宅の跡地、萩住宅の跡地を早く分譲して欲しいということを書いた。

この文面等を誰の名で出したらいいか。案は、町内会長と、萩の総代一同で作っている。複式検討委員会で出すのには、ちょっと文章が違うかなと思うので、あえて書いていない。

文章の3分の2は、前回堀内市議に出した文章と一緒に。最後の、「また神田住宅がなくなることで」を新たに付け加えた。

町内会長と総代会名でよろしいか。検討委員会というのは一言も入れていない。これは萩小学校の問題プラス、萩町の問題として要望させてもらおうと思う。

意見がある場合は、直接言って欲しい。今週はまだ出さないが、来週早々に要望書として出そうかなと思っている。

もう一件。先ほども少し言わせてもらったが、「PDCA=plan、Do、Check、Action」という言葉がある。民間企業だとよく知っている。要は、計画を作って、行動して、その行動結果をチェックして次のアクションに結びつける。このサイクルを回転させることによって業務改善をしましょう、というもの。

これを検討委員会に当てはめると、PDCAのうちの、checkについては、町内の人の意見や、今回の会で色々な人たちの意見を聴く等、色々やっている。Cだけで終わらず、必ずActionを起こさないと駄目。計画を作ってアク

ションを起こさないと駄目。民間企業では、このサイクルをとにかく早く回せと言われる。

前回の時に、『子どもが、学校がなくなっちゃうかもと心配している』という意見があった。子どもたちも、心を痛めて気にしていると思う。それを早くはっきりさせてあげるのは、やっぱり大人の仕事だと思う。そのためにも、もっと行動を早くやらないといけないと思う。

【委員長】 ありがとうございます。要望書について何かあれば副委員長に直接お願いします。

【副委員長】 一応、総代会の名前も使うので、今週の総代会で話をする。

(3) B委員提出の検討事案について

【B委員】 事前に配布してもらった資料には、なぜこの委員会が出来たのかという経過を書かせてもらった。

市長のマニフェスト実行に向けた後押しを、検討委員会と教育委員会が連携して、しっかり行っていただきたい。

萩小学校がどういう方向に進むかわからないが、副委員長が言われたように、萩の活性のためには世帯数を増やす必要があり、コミュニティも大きくしていかなければいけない。その結果として子どもの数が増えればそれに越したことはない。

先ほどから、2、3人の学年について、デメリットのように考えている意見が多いが、今の小学校は塾等に行っていることが多い。2、3人だったら、問題集を渡して、本人達がやる気でやっていけば、別に塾なんて行かなくてもよくなる。そういうメリットもあるということを、若い保護者の方に少しでも響けば、また考えが変わるかもしれないということで、意見を言わせていただいた。

2 その他連絡等（添付資料の説明等）

【事務局】 今回の会議資料と合わせて、参考資料を配布させていただいた。

今まで会議の場などで、委員の方から複式編制、複式学級というものがよく分からないので、「なぜ複式編制を回避する必要があるのか分からない」という意見もいただいた。そこで、今回参考資料として、平成31年3月に策定した、基本方針の中で「複式学級を編制する場合の課題などを記載した部分を抜粋」したものや、他の自治体が作成した「複式学級のメリット・デメ

リット」を資料として用意した。

また、複式編制回避の取り組みのひとつである「小規模特認校制度」について、県内他市の実施事例について配布させていただく。

最後の資料は、「小規模校の課題解決に向けた取組の検討報告書」で、少子化の進行により、児童生徒数が減少していく状況を踏まえ、小規模校に関する課題に着目し、課題解決に向けた具体的な対応について、調査研究をし、報告書としてまとめたものとなる。

委員の皆様の参考になればと用意したので、よろしく願いしたい。

【委員長】 長時間にわたり有難うございました。

なるべく早く情報については伝えさせていただく。よろしく願います。

[事務局] 次回の検討委員会は「保護者の意見を聴く会」の状況を踏まえて、結果報告という形になると思う。

次回の検討委員会の日程調整については、後日、委員長、副委員長と相談して皆さんに報告する。

以上